

人生の折り返しに入ってからしばらく経ち、幼少期の「原体験」が、毎日の癒しとなっていることに気づきました。父方は海、母方親族は山で、毎年夏にはどちらにも行き、家の前に広がる海は懐かしいような磯の香で満ちていて、夢中で戯れた鮮やかな色の魚たち、奇妙な形のイソギンチャクや、三輪トラックの荷台に乗せられ、山奥の畑で食べたスイカの鮮やかな赤色とみずみずしい果肉などが、当時の五感で感じたままに蘇り、新鮮な酸素を身体に取り込んだように感じます。かつて海外でストレスいっぱい時には、世銀などの国際機関が推奨する瞑想や自律訓練など様々な自己管理法を実践し、それなりに効果はありました。芦屋に戻り「幼い生命をお預かりする」という、より一層難しい仕事に就き、大園長の「大事に・大事に」を保ちつつ、今の時代の保育に大事な要素は何かを求め続け、さらなる重圧が来たちょうどその時に名誉理事長が園庭を全面芝生にしてくれました。きれいな緑が嬉しくて、裸足でうろうろするうちに、長い間忘れていた先の「原体験」が身体の中から蘇ってき、解決困難と思っていたことが「何とかなる」に変わってゆきました。この効果は自己管理法以上とも言える本物ですので、ぜひ皆様の可愛いお子さん方にも楽しさ満載の夏に沢山貯めていただきたいです。ご両親それぞれの原体験を思い出していただき、お子さんと体験し共有していただけないでしょうか。まだまだ遠い先であっても、やはりお子さんたちは成長し、親元から飛び立って行きます。そのあとにも続いてゆく長い人生で、与えてもらった「原体験」はきっと苦しい時の「守りと癒し」になってくれると信じています。皆さまと一緒に楽しい夏となりますように。